

年頭のごあいさつ

岐阜県林政部

部長 萩 巢 雅 俊



明けましておめでとうございます。

貴会の皆様におかれましては、令和改元後初めての新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年10月、令和という新しい時代の幕開けを記念し「令和改元記念揖斐すめらぎの森感謝祭」を揖斐川町で開催したところ、6千人を超える皆様にご来場いただき、森林を守り育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを発信することができました。

また、11月に岐阜市で開催した「ぎふの木フェスタ2019」では、目標を上回る2万6千人以上の皆様にご来場いただき、木に親しみ、そして木の良さを感じていただけたと思います。

改めて貴会並びに会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取り組みが広がりを見せている中、目標の一つである「つくる責任 つかう責任」の達成に向け、持続可能な木材調達・消費の促進が重要な課題となっています。

このような中、本県では、充実した森林資源を有効に活用し木材生産量を増加させるため、郡上市に大型製材工場、中津川市に合板工場、そして瑞穂市に木質バイオマス発電施設といった木材の品質に応じた加工体制を整備してきました。その結果、平成30年度の木材生産量は56.9万 m^3 で、平成17年度の約2倍となっております。

しかし、本県の人口は減少傾向となり、この先、県内での木造住宅需要の大幅な伸びは期待できません。このため、県外での木造住宅需要を確保するとともに、非住宅分野や海外への販路拡大を進めていく必要があります。

そこで、県外に向けては、首都圏や中京圏、関西圏などの都市部を中心にモデルハウスの整備支援、住宅関連展示会でのPR、県産材住宅建設の支援に取り組んでまいりました。その結果、平成30年度の県外における県産材住宅の建

設戸数は、1,252戸と平成18年度の約3倍となっております。

また、非住宅分野では、教育・福祉などの公共施設のほか、商業・観光施設やCLTなどの新技術を活用した施設の木造化・木質化についても支援しています。海外については、平成27年に「岐阜県産材輸出推進協議会」を設立し、オール岐阜体制で県産材製品の輸出拡大に取り組んでまいりました。

韓国を皮切りに、平成30年度から台湾、令和元年度からは新たに中国でも展示会に出展するなど、その取り組みを拡大させているところです。県産材製品の輸出額は順調に伸びており、平成30年は平成26年比で、韓国は約4倍、台湾は約3倍に拡大しています。

一方で、本県の豊かな森林を守り育てていくためには、子どもから大人まで幅広い世代の皆様の森林・林業に対する理解が重要となります。そのため、日本初の森林教育に関する総合拠点となる「森林総合教育センター（愛称：もりのすmorinos）」を森林文化アカデミー内に建設しているところです。

さらに、森や木に親しみ、森林とのつながりを体験できる総合的な木育拠点となる「ぎふ木遊館」を岐阜市に建設しています。両施設とも今春の開館予定で、両施設が連携し、ぎふ木育の更なる普及を図ってまいります。

こうした中、いよいよこの7月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。東京オリンピック・パラリンピックは県産材を国内外へ広くPRできる絶好の機会です。これまで新国立競技場の軒・庇や選手村ビレッジプラザなどでの県産材利用が決定し、今後は関連施設での家具や競技場仮設物等での県産材の利用に向け、PR活動を行ってまいります。そして、東京オリンピック・パラリンピックでの県産材利用を通して高まったブランド力を活かし、県産材の国内外での販路拡大に積極的に取り組んでまいります。

結びになりますが、本年が本県の林業・木材産業の飛躍の年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。